

## 令和4年度 平井保育園事業報告

### 1. 概要

#### ①運営方針

- 今年度より、0歳児（6か月）からの受け入れを実施しました。受け入れ体制は整備したものの広報活動が不十分でした。定数の入所は確保できましたが、育児休業を1年取得する家庭や1歳までは事業所内託児所を利用する家庭がほとんどで地域に浸透させるための取り組みが必要と考えます。
- 今年度は新卒者2名、経験者2名、6月より経験者1名の採用をしました。園長、主任、クラスリーダーが中心となり、保育の手順や意味を説明し指導するよう取り組んできたものの、指導内容や仕事の進め方については課題が残りました。  
働きやすい職場環境を目標に、正規職員数の比率を引き上げたことで、役付けの軽減や、有給休暇の取得向上に繋がりました。
- 子育て支援センターは、テレビ会議システムを利用し、子育て家庭に遊びの提供を実施しました。また、支援センターの活動は予約制で開催し、コロナ禍でも、子育て家庭が孤立することなく、子育ての不安を相談できる場として役割を果たすよう取り組みました。

②定員 120名 合計 141名（定数外21名）

③事業日数 362日（うち休日保育 49日実施）

④開園時間 平日 7:00～20:00  
土曜日 7:00～20:00  
休日 8:00～18:00

⑤保育時間 早朝保育 7:00～ 8:30  
通常保育 8:30～18:00【標準時間認定】  
8:30～16:30【短時間認定】  
延長保育 18:00～20:00

#### ⑥職員数

園長1名、主任保育士1名、保育士23名（うちパート保育士9名）  
看護師パート1名、子育て支援センター担当職員3名（うちパート保育士2名）  
延長休日保育担当保育士3名（うちパート保育士3名）調理員7名（内パート職員5名）  
用務員(高齢者雇用)1名、嘱託医（小児科医・歯科）各1名(各年2回健診)

### 2. 保育運営

#### ①保育理念

- 子どもは子ども同士認め合い、助け合い、励まし合い、学び合う子ども社会の中で成長することが望ましいと考えます。

- 私たちは、子どもの個性・人格を尊重し、自立を促し、日々の生活の中で家族とともにその成長・発達の援助を行います。

## ②保育方針

- 社会福祉法人白鳩会保育メソッド・一日の保育の流れを中心に、子どもたちが主体的に生き生きと生活・活動できる環境を整え、自己を十分発揮し人として『生きる力』を育む。
- 在園児および地域の子育て支援を行う。
- 愛着関係を確立させ、子どもとの継続的な信頼関係を築く。

## ③保育目標

乳児期の愛着関係を基盤とし、認知能力（記憶、計算、判断、決定、言語理解など）と非認知能力（意欲、協調性、粘り強さ、忍耐力、計画性、思いやり、自己肯定感）を育む。

## ④クラス体制

0歳児	12名	保育士	5名	（うち保育士パート1名）
1歳児	24名	保育士	5名	（うち保育士パート1名）
2歳児	25名	保育士	4名	（うち保育士パート1名）
3歳児	28名	保育士	3名	（障がい加配保育士パート1名）
4歳児	26名	保育士	2名	（障がい加配保育士1名）
5歳児	26名	保育士	2名	
合計園児数	141名	保育士	21名	

主任保育士 1名

フリー保育士 2名

延長休日保育担当保育士 3名 （うちパート保育士3名）

## ⑤保育内容

- 0歳児クラスは、一人一人の生理的欲求を満たし、十分に寝て、よく飲み、食べ、遊ぶなど個々のリズムに応じた生活を大切にしました。また、声や動き、表情などから子どもの気持ちを汲み取り応答的に関わることに努めました。
- 1．2歳児クラスは、ゆるやかな担当制保育の中で、食事や着替えなど日常の基本的な生活習慣の確立に向けて取り組みました。活動の中で、保育士が必要以上に言葉をかける、子どものペースが待てないなど保育士主導の場面も見られました。「朝の意味ある運動」はウッドデッキを活用し、保育士と一緒にしっかりと身体を動かすことができました。
- 保育士は子どもと話す際は目を見てしっかりと話すことを心がけ、子どもたちが目や眉から表情を読み取ることができるよう努めました。
- 3歳以上児クラスの毎日の「朝の意味ある運動」は、前日の脳のストレスを発散させることを目的とし、しっかりと身体を動かすことができました。
- 運動遊具を使って運動機能を高めると同時に、子ども同士が関わり、共感しながら楽しく取り組

める運動あそびを取り入れました。

- リトミックでは、基本的な動作を正しく身に着けられるよう取り組みました。その中でも即時反応やピアノの音に合わせて動くことに重点を置き取り組みました。
- 言葉の学習では、正しい発音で読むことを意識して伝えていきましたが、正しい口の動きを伝えることが難しく、滑舌の悪さの改善は今後の課題です。
- 音楽あそびでは、6月から専任講師による指導が開始しました。4月、5月に基礎が十分にできなかったことで当初の計画を見直しました。体育あそびは、年間計画に沿って取り組むことができました。
- 人権指導は全国養護委員連合会のリーフレットや、人権に関する絵本を通して月1回自分を大切にし、友だちを思いやることの大切さを伝えていきました。
- 食育年間計画に沿って、近隣の畑で季節の野菜を栽培しました。また、育てた野菜を調理することで、食への興味・関心を高めることができました。
- 保健指導では、年間計画に沿って、姿勢、汗、目、排便、寒い日の身体づくりなど、自分自身の身体の機能について関心を持ち、子どもが自ら健康について意識できるよう指導しました。

#### ⑥家庭との連携

- 家庭訪問（新入園児のみ）、個別懇談（年1回）、クラス懇談会（年2回）、保育参加（年1回）を実施しました。保育参加は102名の参加があり、園の取り組みや保育内容を知ってもらうことができました。
- 子どもの興味・関心がわかるような写真の取り方を心がけ、子どもの育ちや発達が伝わるよう、ドキュメンテーションの内容を見直しました。
- 毎月の園だよりは、子どもたちの月の活動や成長が伝わるように写真を多く用いて掲載しました。
- 感染症の情報や園のお知らせ文書は、連絡アプリを活用し、利用者の利便性を図りました。
- おたよりで「早寝・早起き・朝ごはん」の大切さを伝え、正しい生活リズムを身につけるよう発信しました。また、夕方運動ではしっかりと身体を動かし、午後からもほどよい疲れを感じ、生活リズムが整えられるように努めていることを伝えていきました。
- 配慮が必要な子どもについては、保健所や発達支援事業所などの専門機関と連携し、配慮児及び保護者支援に努めました。

#### ⑦人材育成

- 各年齢の「一日の保育の流れ」のマニュアルがあるもののそれを活用することができていなかったのが現状です。そのため、経験の浅い職員への指導も、各々の方法となっています。園の基礎となる「一日の保育の流れ」、マニュアルを職員とともに整備し、活用していくことが今後の課題です。
- 0歳児保育を始めるにあたり、子どもの個人差や興味、関心に沿った保育室の環境づくりについて、ミルクの作り方、離乳食の提供についてなど姉妹園に出向き学びました。
- 副主任級となる職員については、業務分担を行いシフトの作成・発信文書などの業務について引き継ぎをしました。しかし、指示系統の曖昧さや果たすべき責任については課題が残り、さらに役割を明文化する必要があります。
- 研修計画に基づき、外部による乳児研修や新人研修を受講しました。また、救命救急、感染症対

応、嘔吐処理、不審者訓練、石井式漢字教育、などの園内研修を実施しました。

- 子育て支援担当者は、「松山市子育て支援拠点事業連絡会」主催の専門研修に参加し、地域の実態や子育て家庭のニーズを把握することに努めました。

#### ⑧地域の実態に対応した事業

##### ●地域子育て支援拠点事業

- ・感染予防対策を講じつつ、予約制で開館を行いました。子育て講座11回、親子ふれあい広場26回、赤ちゃん広場41回、出張保育5回、園庭開放9回実施しました。支援センターの年間登録者数は101名でした。
- ・育児講座や赤ちゃん広場の会場を保育園にしたところ、保育園の見学も同時に行えると好評でした。
- ・子育て支援センター利用家庭からの入園申し込みは9家庭でした。
- ・子育て支援センターのホームページ及びパンフレットの内容を見直し、活動内容をわかりやすく伝えることに努めました。
- ・テレビ会議システムを活用し、生活習慣確立へのアドバイスや年齢にあった玩具や絵本の紹介、あそびの情報提供を行いました。

##### ●地域とのかかわり

- ・中学生の職場体験学習では、保育士の仕事や乳幼児の発達について学ぶことができるよう積極的に受け入れました。
- ・高齢者施設との交流はコロナ感染防止のため、実施できませんでした。
- ・地域の文化祭に子どもたちの絵画を出展、駅伝大会では職員が参加、地域の方々が楽しみにしているハロウィン行事は実施するなど、地域の方々と可能な範囲で交流を深めました。

##### ●小学校との接続

- ・小学校の特別支援教育コーディネーターに年2回来園していただき、支援の必要とする子どもの生活姿を見てもらい、小学校へのスムーズな接続ができるよう努めました。また、年2回の保幼小連絡協議会に参加し、意見交換や園児の家庭環境、子どもの育ちなどについて情報提供を行いました。

#### ⑨苦情対応

- 第三者委員（主任児童委員2名）を設置し、園内での掲示やガイドブックに苦情解決システムについて記載し、保護者に周知しました。苦情解決の責任者を園長、苦情受付担当者は主任保育士とし、苦情には概ね24時間以内に改善案を保護者に伝え対応しました。

#### ⑩リスクマネジメント

- 様々な災害を想定した避難訓練月1回実施しました。また、年に1回消防署の職員立ち合いで火災時の避難訓練を実施し、職員は消火器を使った模擬訓練や、通報の仕方について学びました。
- ヒヤリハット報告は昼礼時にクラスより報告するように取り組むことで、以前の取り組みに比べ収集率は上がりました。報告内容に関しては、改善し再発防止に努めました。

- 感染症については、最新の情報を収集し、園内掲示や保護者配信アプリで周知しました。また、発生時の対応方法についてのマニュアルを職員に周知し、適切な対応ができるよう取り組みました。
- 安全や保健に関する研修に参加しました。また、園における救急対応動画を活用し、自園での重大事故を想定した研修を実施しました。
- 備蓄品は、消費期限が近付いているものは給食で提供するなど、ローリングストックを活用しました。
- 地域の防災訓練（年2回）は中止となりました。
- 園外保育時の安全性を高めるために、小野交番連絡協議会に参加し、地域の危険個所の情報収集を行いました。また、月1回の園児に対する交通安全指導と、年1回生活安全課による交通安全教室を実施しました。

#### ⑪休日保育

- 休日保育の年間延べ利用人数は120名でした。  
園内利用9名 園外利用者3名

#### ⑫その他

- 安田式遊具 テクノロマン八角ジム購入
- 松山市による、園舎2年点検実施